

わたしのとく意なお手つだい

猿島小学校 三年 森下 なな実

「シャカシャカ」

わたしは、お米をとぐ音が好きです。この音を聞くと、たきたてのあまくておいしいお米が食べたくになります。

わたしがはじめてお米をとぐお手つだいをしたのは、四才のころです。お米をといでいたおばあちゃんちゃんの所へ行き、わたしにもやらせてほしいとおねがいしました。おばあちゃん

んはにっこりとわらいながら、お米をとぐ時に心がけることを二つ話してくれました。

一つ目は、お米を一つぶ一つぶ大切にするということです。

「お米は、農家の方が長い時間をかけて育ててしゅうかくしたものだよ。たった一つぶもむだにしてはいけないよ。」

この話を聞いて、農家の方が悲しまないように、お米をとぐ時も食べる時も、一つぶ一つぶを大切にしようと思いました。

二つ目は、お米がおいしくたけるように、  
思いをこめてとぐということです。

「ごはんをたく時も、おりょう理をする時も、  
食べる人のことを考えて、心をこめること  
が大切だよ。おいしくなあれと言いなから  
といでごらん」。

わたしは、本当なのかなと思っただけれど、や  
つてみることにしました。

わたしは、おばあちゃん<sup>バ</sup>の言う通り、  
「おいしくなあれ、おいしくなあれ」。

と、言いながらお米をとぎました。そして、  
とぎじるをすてる時は、ゆっくりとしん重に  
お米をこぼさないように気をつけました。

お米がたきあがると、お米はキラキラとか  
がやいていました。そのお米を食べた家族は、

「あまくておいしいね。ありがとう」。  
と、うれしそうに言ってくれました。わたし  
は、またお米をとぎたいと思いました。

その日から、わたしは、お米をとぐことが  
とく意になりました。